

# 平成26年度事業報告書



## V 事業報告

### 1 多文化共生社会の実現

外国人児童生徒の学習や地域社会への参画等にかかる課題を解決するとともに、外国人県民が安全で安心して暮らせる社会づくりを進める事業を実施した。

#### (1) 外国人児童生徒への学習支援

##### ① 外国人児童生徒の居場所づくり事業(26 決算額 6,990千円)

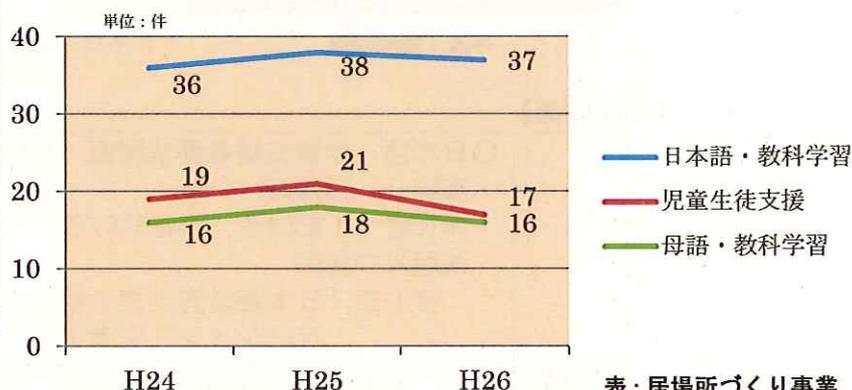
※決算額については、事業総額により記載

#### 【実施状況】

外国人児童生徒に対する日本語・教科学習支援、母語・教科学習支援、その他の活動支援を地域の団体と協働実施



写真：先輩に聞こう(神戸市内)



#### 【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語・教科学習教室 37講座（計画31講座）<br/>（進学に向けた教科学習集中支援教室を含む）</li> <li>○母語・教科学習教室 16講座（計画15講座）</li> <li>○その他児童生徒支援 17事業（計画25事業）               <ul style="list-style-type: none"> <li>〔内訳・先輩に聞こう 5事業（計画 5事業）〕</li> <li>・こころと進路のカウンセリング 5事業（計画10事業）</li> <li>・活動支援 7事業（計画10事業）</li> </ul> </li> </ul>   |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語・教科学習教室、母語・教科学習教室の実績は安定推移<br/>日本語・教科学習教室と母語・教科学習教室は計画を上回り安定的に開催されており、県内各地で外国人児童生徒の学習に対する支援体制の整備が進んでいることを示している。</li> <li>○居場所としての機能拡充が課題<br/>日本語・教科学習教室や母語・教科学習教室の講座数は目標を達成しているが、カウンセリングやイベント開催支援などの児童生徒支援が計画未達かつ前年度よりも実績減となっている。<br/>このような付加メニューはこれら教室がニーズに応じて追加し、外国人児童生徒が安心して地域社会で成長するための支援拠点として機能することを目指したものであることから、教室に活用を促すとともに、ヒアリングなどを通じて活用の促進を図る。</li> </ul> |

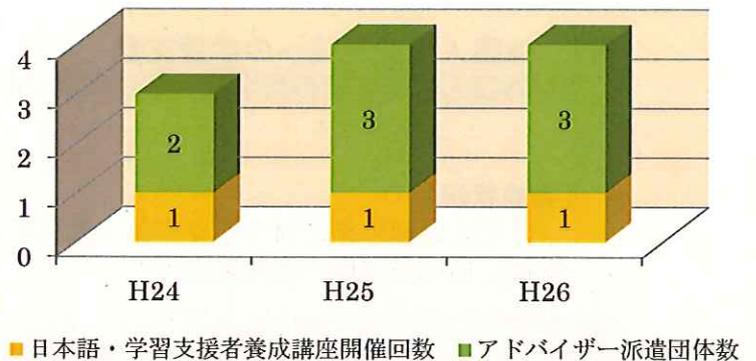
② 外国人児童生徒への日本語・学習支援者の育成(26 決算額 289千円)

【実施状況】

外国人児童生徒に対する日本語・学習支援者の養成及び団体への運営支援を実施



写真：養成講座



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○日本語・学習支援者養成講座 1講座 (計画 1講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 1月17日 (土) ・会場 国際健康開発センター</li> <li>・参加者 I部54名、第II部67名</li> <li>・演題及び講師</li> </ul> <p>第I部「日本語教育支援の視点から多文化なこどもとの”コミュニケーション”を考える</p> <p>— 『寄り添う』ってどういうこと? 『支援する』って難しい?—</p> <p>安田 乙世 NPO法人おおさかこども多文化センター副理事長</p> <p>第II部「年少者への日本語指導～初歩から教科学習まで～」</p> <p>大蔵 守久 (一財) 波多野ファミスクール 執行理事・学監</p> <p>○日本語・学習支援アドバイザーの派遣 3箇所 (計画 2箇所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施箇所 神戸市(6・10月)、豊岡市(9月)、芦屋市(9・10月)</li> <li>延べ65名参加</li> </ul> |
| 評価 | <p>○増大する外国人児童生徒への支援ニーズへの対応</p> <p>日本語教育や教科学習支援を必要とする外国人児童生徒への対応が課題として認識されるようになり、支援ができる人材を養成していく必要がある。</p> <p>例年、養成講座には多くの参加者が集まるが、このたびの講座も概ね好評で、「実体験に基づく講義は具体的で分かりやすく、今後の活動に役立てたい」、「分かりやすく楽しく日本語を教える方法について学ぶことができた」などの意見が寄せられた。また、アドバイザー派遣も計画を上回り実施しており、貴重な研修の機会を提供している。</p>   |

③ 母語教育支援研修会の開催(26 決算額 192千円)

【実施状況】

県内母語教育関係者を対象に母語教育への理解を深める研修会を開催

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○母語教育支援研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 7月27日(日) ・会場 国際健康開発センター</li> <li>・参加者 38名</li> <li>・演題及び講師</li> </ul> <p>第Ⅰ部「家庭・地域・学校でできる母語保持・育成ー理論から実践へー」<br/>櫻井 千穂 大阪大学・日本学術振興会特別研究員</p> <p>第Ⅱ部「神奈川県秦野市における継承スペイン語教室の取り組み」<br/>河北 祐子 上智大学短期大学部サービスラーニングセンター<br/>多文化コーディネーター</p>  |
| 評価 | <p>○母語教育の効用についての普及啓発</p> <p>日本語教育に比べると母語教育の効用についての認知は低いことから、その意義や効果についての普及啓発は依然として必要である。</p> <p>○母語教室立ち上げ事例の紹介</p> <p>母語教育の効果についての調査・研究成果や事例紹介に続き、神奈川県秦野市で母語教室を立ち上げた講師を迎え、母語教室の立ち上げに至る背景や、実際の立ち上げ状況を聞くとともに、教室で実施されているアクティビティを体験するなど、母語教室の運営手法等についても情報共有を行った。参加者から「具体的な事例や成果物が紹介されており分かりやすかった」、「母語教室が地域や学校と協力することの大切さがよくわかった」など、有意義な研修会になった旨の感想が多数寄せられた。</p> |

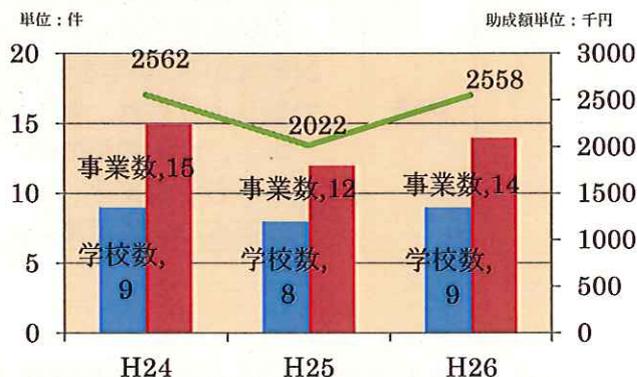
④ 外国人学校交流推進事業(26 決算額 2,562千円)

【実施状況】

県内外国人学校が行う自然学習活動に対する助成を実施



写真：冬山体験の様子



表：助成実績推移

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○助成件数 14件 2,558,000円(計画 15件)   |
| 評価 | <p>○外国人児童生徒の地域における交流と兵庫県への理解促進に寄与</p> <p>外国人学校11校のうち、幼児教育を中心とする2校を除く9校で事業を活用。外国人学校に通う児童生徒に普段訪れることの少ない多自然地域を訪問し、野外体験や地域の人々との交流を通じて兵庫県への理解を深める機会を提供している。</p> |

⑤ 在住外国人向け防災ガイドブック作成・防災教室の開催(26 決算額 2,293千円)

【実施状況】

発生頻度の高い災害や日頃からの備えについてまとめた防災ガイドブックを日本語と外国語併記で作成。啓発効果を高めるため、防災教室を開催



子どもと親の防災ガイドブック



写真：防災教室の様子



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○子どもと親の防災ガイドブック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成部数 計 16,500部(9言語)</li> <li>〔 英語 5,000部、中国語 2,400部、韓国・朝鮮語 2,000語、<br/>スペイン語 1,500部、ベトナム語 1,500部、ポルトガル語 1,500部<br/>フィリピン語 1,000部、インドネシア語 800部、タイ語 800部 〕</li> <li>・配布先 市町、市町国際交流協会、大学、外国人学校、<br/>外国人コミュニティ、地域日本語教室 等</li> </ul> <p>○防災教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 11月16日(日)</li> <li>・会場 兵庫県立広域防災センター(三木市)</li> <li>・内容 地震模擬体験、屋外消火栓使用訓練、煙避難訓練 等</li> <li>・参加者 73名</li> </ul> |
| 評価 | <p>○在住外国人の防災意識啓発の必要性に対応</p> <p>災害弱者となりやすい在住外国人の防災意識を啓発するため、平成24年度から3か年をかけて9言語版を揃えた防災ガイドブックは、新聞で取り上げられ、県外からも引き合いがあるなどの反響があった。</p> <p>また、参加者を公募して開催した防災教室は、大人も子どもも楽しみながら学習でき、災害を疑似体験できるとして好評であったが、在住外国人の防災意識の定着には継続的な取り組みが求められる。</p>   |

(2) 外国人県民のための日本語教育の推進

① 日本語教育指導員等の配置(26 決算額 12,825千円)

【実施状況】

日本語教室の運営、日本語教育に対する相談・指導・助言を行う日本語教師を配置

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○日本語教育指導員、日本語教育補助員、生活日本語推進員 各1名</p>  |
| 評価 | <p>○日本語教師配置による日本語教育の推進</p> <p>日本語教育専門職員を配置し、外国人県民に対する日本語教室を主催するほか、地域日本語教室への運営支援や人材育成を推進しており、県内日本語教育の中核機関である当協会には必要な人員配置である。</p> |

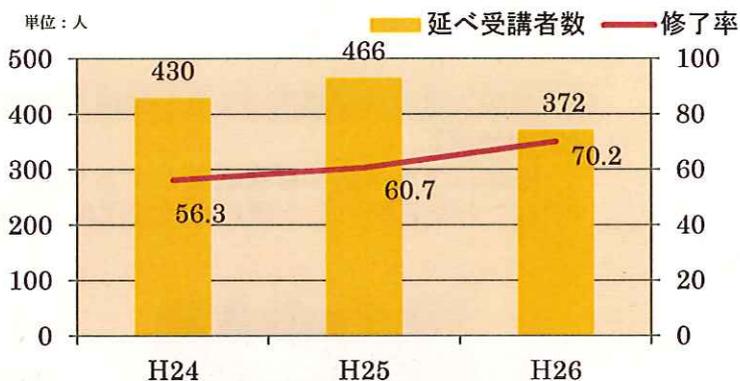
② 外国人県民日本語講座の開催(26 決算額 4,524 千円)

【実施状況】

外国人県民の日本語能力向上のため、年間を通して日本語講座を開設・運営



写真：講座の様子



表：延べ受講者数・修了率推移

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○外国人県民日本語講座の実施</p> <p>基本週2日(32時間/期)、時間帯:18:30~20:30、<br/>                     クラス数:8(初級(5)、初中級(1)、中級(2))、受講料:2千円/期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期 5月12日~7月4日 受講者121名(定員160名)</li> <li>・第2期 10月2日~12月4日 受講者139名(定員160名)</li> <li>・第3期 1月13日~3月9日 受講者112名(定員160名)</li> </ul> |
| 評価 | <p>○受講料徴収による修了率の向上</p> <p>受講生の動機付けを図るため、平成25年度から受講料(2,000円/期)を徴収しているが、修了率(出席率70%以上)は昨年度からさらに10%程度向上した。</p> <p>ただし、意欲ある受講者が集まった一方で、受講者数は定員を下回っており、日本語学習を必要としている外国人県民への周知等に工夫が必要である。</p>   |

③ 夏期集中講座(「すぐに役立つ日本語講座」)の開催(26 決算額 2,273 千円)

【実施状況】

日常生活で役立つ日本語を優先効率的に学習したいというニーズに対応するため、生活場面と密着したコミュニケーション能力の習得に資する講座を夏期に開設



写真：講座の様子

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○夏期集中講座(「すぐに役立つ日本語講座」)の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間 7月11日(金)~8月8日(金)(20日間)</li> <li>・時間数 60時間</li> <li>・クラス数 2クラス(レベル別)</li> <li>・受講者数 35名(計画30名)</li> <li>・受講料 3,000円/期</li> </ul> |
| 評価 | <p>○新たな日本語学習ニーズに対応した講座の新設</p> <p>夏期日中の短期集中講座として開催。</p> <p>これまでの文型中心の学習方法から、日常生活で必要性の高い日本語を優先して学習するとともに、社会習慣や生活情報を併せて理解する</p>  |

ことで、「日本語を用いて実際に自分がしたいことが達成できる」という対処能力を養成する講座として開設。  
 試験的实施でありながら修了率は94%と非常に高く、受講者から高い評価が得られたため、来年度以降も継続して実施する。

④ 外国人県民の居場所づくり：地域日本語教室支援(26 決算額 5,589千円)

【実施状況】

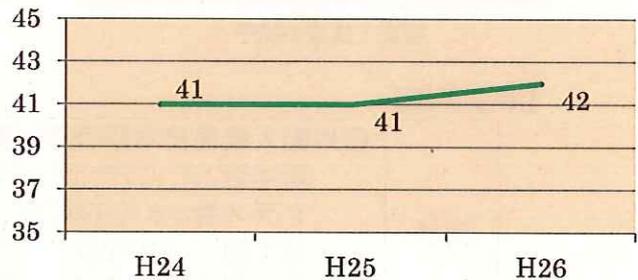
基礎的な日本語学習を必要とする外国人県民に対して日本語会話、識字能力を付与することを目的とした講座を地域団体と協働で開設



写真：地域日本語教室(淡路市内)

単位：件

表：講座数推移



【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○講座数 42講座 (計画 45講座)   |
| 評価 | ○県内各地で多文化共生拠点としての日本語教室を整備<br>地域のボランティア団体等との共催により、外国人県民の居場所となる日本語教室を県内各地で展開。季節の行事体験など各団体が工夫を凝らした活動を実施しており、日本語学習に加えて、日本の文化や生活習慣を学び、地域住民とも交流できる多文化共生の拠点となっている。 |

⑤ セーフティネットとしての地域日本語教室開設(26 決算額 1,215千円)

【実施状況】

日本語教室の未設置市町・同国際交流協会等と連携し、緊急時には安否確認や情報提供等を併せて行うことができる、セーフティネットとしての日本語教室の設置を推進



写真 左：日本語教室(市川町) 右：スピーチ大会(相生市)

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○実施箇所 多可町、香美町、新温泉町 (計画3箇所)  |
| 評価 | ○日本語教室未設置市町の解消に向け、順調に進捗<br>事業を開始した平成24年度以降、順次日本語教室が立ち上がり、23年度末時点で教室未設置であった9市町のうち7市町で教室が開設されるなど、順調に進捗している。 |

平成26年度に事業に着手した3町のうち、多可町と香美町では同年度内に教室を開設したため、残る新温泉町と来年度事業着手予定の神河町に対して円滑に教室を開始できるよう十分な支援を行い、できるだけ早期に県下全市町に教室が設置できるよう努めていく。

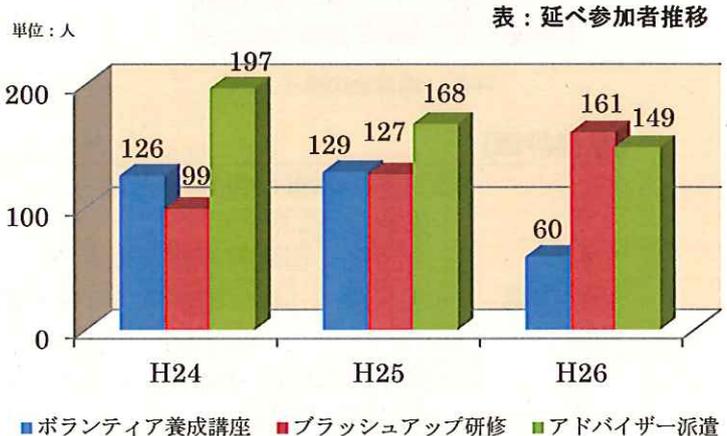
⑥ 外国人県民への日本語学習支援ボランティアの育成(26 決算額 396千円)

【実施状況】

外国人県民に対する日本語学習支援者の養成及び団体への助言



写真：養成講座（香美町）



【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○日本語学習支援ボランティアの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学習支援ボランティア養成講座 3箇所（計画 3箇所）<br/>多可町（5月）、香美町（6月）、新温泉町（11月） 延べ60名参加<br/>※セーフティネットとしての地域日本語教室開設事業として実施</li> <li>日本語学習支援ボランティア・ブラッシュアップ研修<br/>3箇所（計画 3箇所）<br/>芦屋市（10・11・12月）、佐用町（11・2月）、明石市（11月）<br/>延べ161名参加</li> <li>日本語学習支援アドバイザーの派遣 8箇所（計画 6箇所）<br/>淡路市（7月）、明石市（9・11月）、豊岡市（10月）、<br/>宍粟市（10月）、加古川市（10月）、神戸市（11・12月）、<br/>相生市（11月）、姫路市（1月） 延べ149名参加</li> </ul> |
| 評価 | <p>○日本語教室がない地域で日本語学習支援ボランティアを養成<br/>日本語教室がない地域において学習を開始するためボランティア支援者を養成しており、必要かつ有意義な事業である。</p> <p>○日本語学習支援ボランティアのスキルアップや問題解決に貢献<br/>ブラッシュアップ研修、アドバイザー派遣ともに計画を達成。<br/>これらの研修は、各教室の抱える課題や要望をヒアリングのうえ内容を決定し、適任者を講師として派遣している。実践に役立つ事業としてニーズがあり、研修機会の少ないボランティア支援者のスキルアップや団体運営の改善に寄与している。</p>   |

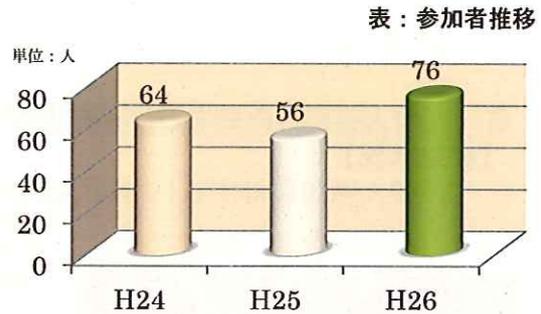
⑦ 日本語教育研修会の開催(26 決算額 210千円)

【実施状況】

日本語教師や日本語学習支援ボランティア、学校関係者等を対象に、日本語教育についての理解を深めるための研修会を開催



写真：講演会の様子



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○日本語教育研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2月28日（土）</li> <li>・会場：国際健康開発センター</li> <li>・演題：「社会参加につながる日本語支援<br/>～とともに暮らす地域住民として～」</li> <li>・講師：中河 和子 トヤマ・ヤポニカ代表理事</li> <li>・参加者：76名</li> </ul> |
| 評価 | <p>○地域日本語教室での活動に役立つ研修会を開催</p> <p>日本語教師や日本語学習支援ボランティア等を対象に、日本語教育についての理解を深めるために開催している研修会では、地域に根ざした日本語教室の運営のあり方をテーマとして取り上げた。</p> <p>県内日本語教育関係者に有意義で役立つ研鑽の場を提供することができるよう、今後とも適切なテーマと講師を選定し、効果の高い研修会を開催していく。</p>      |

(3) 外国人県民への生活支援

① 外国人県民インフォメーションセンターの運営(26 決算額 24,635千円)

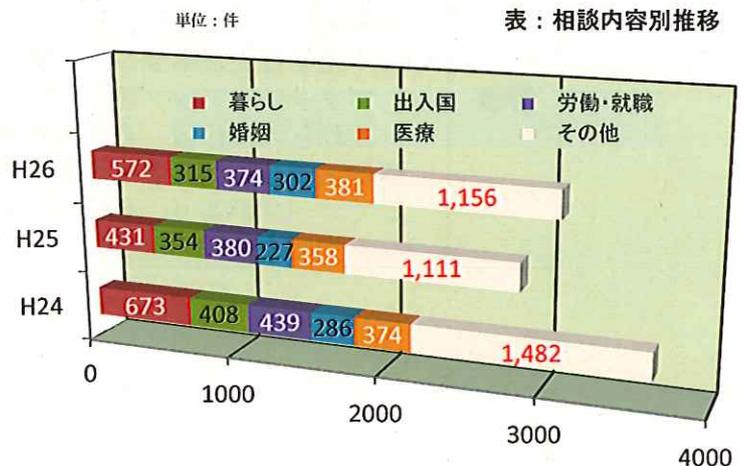
【実施状況】

外国人県民生活相談の実施

外国人県民の日常生活の多様な相談に応じるため、4言語による相談員及び専門相談員による生活相談を実施



写真：センター内



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○生活相談及び法律相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活相談 相談員 5名（英語、中国語、ポルトガル語各 1、スペイン語 2）</li> <li>・法律相談 弁護士（兵庫県弁護士会所属 週 1回）</li> </ul> <p>○相談件数 3,100件（25年度 2,861件）</p> <p>○ブログによる支援・生活情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧数 263件、訪問者数 54.6件（H27.3.22～28の1日当たり平均）</li> </ul>  |
| 評価 | <p>○相談件数の増加</p> <p>相談件数は前年度比8.4%増加している。うち、増加が顕著な相談は、「社会保障」161.4%、「婚姻」133.0%、「くらし」132.7%、「住居」131.0%などで、DVなど婚姻関係のトラブルに起因する自立支援に関するものが増加している。</p> <p>相談内容は、「くらし」、「医療」、「出入国」の順に多いが、定住化の進む中、簡単な相談は減少し、「労働」、「教育」など専門性の高い相談が多いため、公的機関や外国人県民の生活に関連のある機関など36団体で構成する「外国人県民相談ネットワーク推進会議」を開催し関係機関との連携を深め、情報を共有しながら適切かつ迅速な問題解決に努めている。</p> <p>○外国人支援のための情報提供</p> <p>外国人県民支援をしている団体や支援者が外国人県民をサポートする際、参考になる情報「兵庫県外国人県民インフォメーションセンター便り」というブログを作成し、関係機関などの情報発信元のリンクを貼りH I Aのホームページ上で提供している。</p> |

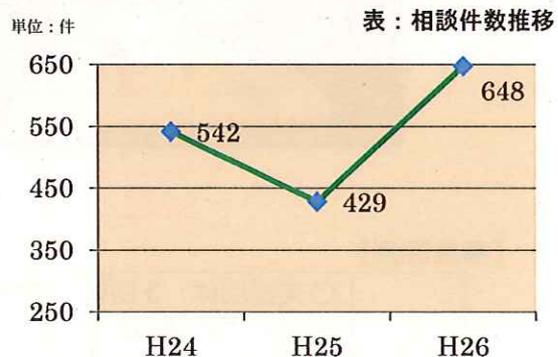
② 市町・NGO と連携した外国人県民相談活動の実施 (26 決算額 2,640千円)

【実施状況】

NGO 等と連携した夜間及び休日等の相談を実施



写真：相談の様子



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○実施団体 3団体 計 648件（計画 3団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NGO 神戸外国人救援ネット 265件（英語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語）</li> <li>・特定非営利活動法人篠山国際理解センター 148件（英語・中国語・ポルトガル語・タガログ語）</li> <li>・ひめじ発世界 235件（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語）</li> </ul> |
| 評価 | <p>○相談件数が増加</p> <p>外国人の定住が進むにつれて相談内容が複雑化する傾向にあり、3団体ともに相談件数が大幅に増加。夜間・休日の相談事業への高いニーズを反映している。</p>   |

③ 多言語生活ガイドホームページの運営(26 決算額 他事業で計上)

【実施状況】

外国人県民が日本で生活する上での生活情報を掲載した多言語生活情報ガイドホームページを運営

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○10言語による生活情報の掲載 (計画 10言語)<br>(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、タイ語)                    |
| 評価 | ○さらなる内容充実が課題<br>県内の医療機関や日本語教室、外国人相談窓口のリストを人口の多い主要10言語で掲載しているが、時宜を得た更新によりさらに内容の充実を図り、閲覧者の利便性の向上に努める必要がある。 |

④ 外国人県民生活サポート活動の支援(26 決算額 3,601千円)

【実施状況】

外国人コミュニティによる生活相談や情報提供などの生活支援活動、子どもに対する母語教室の開催等を支援



写真 左：母語教室の様子 右：スペイン語情報誌

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○支援団体 3団体 (計画 3団体)<br>・ベトナム夢 KOBE<br>(母語・母文化教室、生活相談、情報誌発行等)<br>・NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ CBK<br>(母語・母文化教室、情報誌発行等)<br>・ひょうごラテンコミュニティ<br>(母語・母文化教室、生活相談、情報誌発行等)                      |
| 評価 | ○外国人コミュニティの活動充実に必要不可欠な支援<br>各コミュニティは小規模団体ながら、子どもに対する母語・母文化教室の開催、生活相談や母国の祭り等のイベント実施、情報誌の発行等、外国人コミュニティだからこそできる活動に取り組んでいる。<br>これらコミュニティとの連携は当協会にも有意義であり、団体の活動内容の充実に役立つ不可欠な支援である。 |

⑤ 多文化共生を考える研修会の開催(26 決算額 1,285千円)

【実施状況】

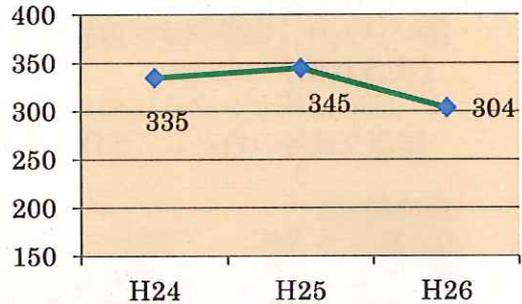
多文化共生について理解を深めることができる研修会をNPOと協働で開催



写真：研修会の様子

単位：人

表：参加者数推移



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○多文化共生を考える研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：8月18日、20日、22日、25日の4日間（計画4日）</li> <li>・参加者：304名</li> <li>・会場：国際健康開発センター、海外移住と文化の交流センター</li> <li>・内容：①「多文化共生」社会に向けて<br/>②歴史から考える共生 ③外国人の子どもの教育<br/>④外国人受け入れ政策</li> </ul> |
| 評価 | <p>○タイムリーで多彩なテーマによる講演の実施</p> <p>講師として学識者やNPO関係者等を招聘し、時勢に合った多文化共生に関する様々な視点からの講演を、NPO、県、教育委員会等と共催。参加者からは「日本に住む外国人の状況について初めて知ることがあった」「これからの多文化共生の取り組みを考える機会になった」など前向きな意見や感想が寄せられた。</p>  |

⑥ 医療現場で役立つ日本語研修会の開催(26 決算額 99千円)

【実施状況】

医療等の業務において外国人県民と接する担当者等を対象に、「やさしい日本語」の意義を説明し、その表現の仕方を学ぶ研修会を開催

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○やさしい日本語の普及促進を目的とする研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 12月8日(月) (計画1回)</li> <li>・場所 国際健康開発センター ・参加者 30名</li> <li>・第I部 講演「医療現場で役立つ「やさしい日本語」とは？」<br/>桂木 聡子 兵庫医療大学薬学部講師</li> <li>・第II部 講演および演習<br/>「外国人患者さんとコミュニケーションを取ってみよう」<br/>新垣 智子 りんくう総合医療センター外来副看護師長</li> </ul>   |
| 評価 | <p>○外国人県民対応のための実践的研修</p> <p>外国人県民に対する情報伝達の多言語化と並行して「やさしい日本語」による表記を進めることも大切であることから、昨年度に引き続き、医療現場で役立つ「やさしい日本語」の意義を説明し、その具体的な表現方法を学ぶ研修会を開催。</p> <p>参加者から「やさしい日本語がいかに大切かわかった」、「演習で実践したことを今後の業務に役立てたい」などの感想が寄せられた。有益な研修会だったとの評価を得たが、「医療現場での日本語」という問題提起と意識喚起という所期の目的を達したことから、26年度をもって事業を終了する。</p> |

## 2 交流人口の拡大

草の根による国際交流や国際会議の開催、県民の国際理解の促進を通じて、国内外の人的交流を推進し、県民の国際交流を進める事業を実施した。

### (1) 国際交流の推進

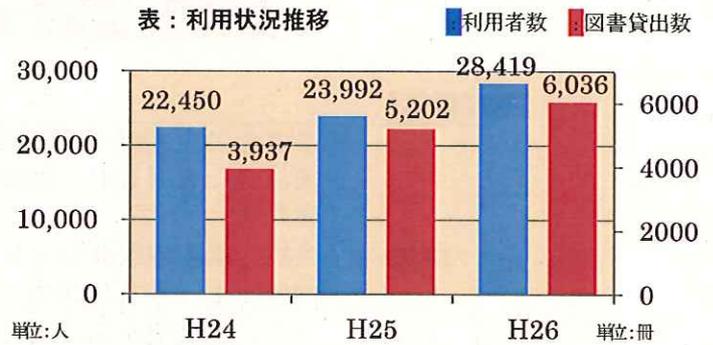
#### ① ひょうご国際プラザの管理・運営(26 決算額 131,977 千円)

##### 【実施状況】

国際情報センターにおける各種国際関係情報の提供やNGO等と連携した展示など国際交流等の場として設置している「ひょうご国際プラザ」を管理、運営



写真：国際交流員によるイベント



写真：プラザの様子

##### 【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者数 28,419人</li> <li>○図書貸出数 6,036冊</li> </ul>   |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者ニーズに即した運営の見直し<br/>国際交流員がプラザ内や近隣小学校でイベントを行う等、プラザ広報を強化したことや利用者ニーズに応じた図書の購入、さらには25年度から開館時間帯等の見直しを行った結果、外国人県民日本語講座受講者や近隣住民を中心にプラザの利用が増え、利用者数や図書貸出数が増加した。</li> <li>○プラザの賃借面積の有効活用<br/>兵庫県包括外部監査でプラザの全体スペースの集約等により有効活用すべきとの意見を踏まえ、26年度にセミナールームを廃止、図書スペースを縮小する等レイアウトの変更を行った結果、親しみやすさが増し、利用者数も増えたため、効率的に運営が図られた。</li> </ul> |

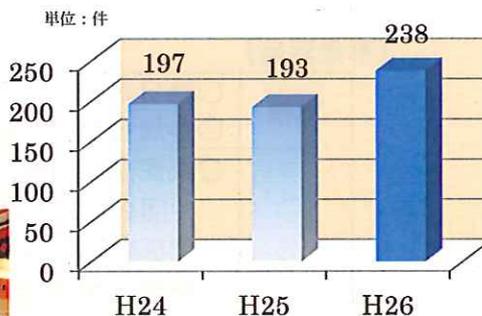
#### ② 海外事務所の運営(26 決算額 152,588 千円)

##### 【実施状況】

海外における県内企業の海外進出等の支援を行うとともに、学术交流、文化交流など幅広い分野での交流を実施・支援を行うため、海外5事務所（ワシントン州、西オーストラリア州、パリ、ブラジル、香港）を運営



写真：海外事務所活動の様子



表：経済活動報告数

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○経済活動数 238件   |
| 評価 | ○県内企業の海外進出等の支援<br>県内企業が海外事務所に進出・販路拡大する際の現地支援を行っており、現地事務所の存在を活かして、県内企業の支援に努めた。<br>(例：日本酒(ワシントン州ほか)、淡路線香(パリ事務所ほか))<br>また、魅力ある県地場産品の「ブランド」としての発信を支援した。<br>(例：姫路黒棧革・坂本商店(香港)) |
|    | ○県内各市町姉妹都市提携など幅広い分野での交流を支援<br>各事務所において、新たな姉妹都市提携の可能性を模索し、調整を進めるとともに、学校・学術交流、スポーツ交流など各分野における交流を支援し、幅広い分野で実り多い交流の実現を果たした。   |
|    | ○事務所における各種交流の実施<br>事務所スペースを活用した県や日本の文化等を紹介する展示会・講演会や日本語教室などを開催。<br>また、裏千家淡交会青年部の協力を得て茶会を開催するなど、交流活動を活発に行っている。   |

③ 県民交流団の派遣 (26 決算額 3,346 千円)

ア ロシア・ハバロフスク地方

【実施状況】

兵庫県とハバロフスク地方の姉妹提携 45 周年を記念して現地で開催される周年記念行事への参加や、現地での草の根交流を目的として県友好訪問団に参画



写真：現地での様子

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○訪日日時 8月19日～8月23日（全5日間）<br>○参加者数 39名（計画15名）   |
| 評価 | ○県民交流団員による交流の実施<br>団員は、共同声明調印式及び記念レセプションに参加し、地方政府関係者等との交流を行ったほか、ハバロフスク市民の農家、地域公民館施設等を訪問。市民の日常生活について理解を深めるとともに、草の根の交流を展開した。<br>○草の根交流の展開（アンケートより）<br>「民族衣装を着た子ども達と一緒にダンスや現地遊びができて、とても印象深かった」、「普通の旅行では体験できない事を色々経験させて頂きました。良い思い出になりました。ありがとうございます」、「地元の方との交流ができた」、「訪問団の中でも交流がも持てて良かった」など、参加者全員から「内容がとても良かった」との感想が寄せられた。 |

イ 韓国・慶尚南道

【実施状況】

平成24年に兵庫県と慶尚南道が交わした覚書に沿って友好交流を推進するため、県民交流団を派遣。現地で開催された交流会への参加などの草の根交流を目的として実施

写真：現地での様子



【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○訪日日時 11月1日～11月3日（全3日間）<br>○参加者数 26名（計画15名）   |
| 評価 | ○県民交流団員による交流の実施<br>団員は、慶尚南道の歴史や遺産に触れ、韓国文化について理解を深めた。また、交流会に参加し、慶尚南道政府関係者等との交流を行ったほか、慶尚南道観光協会との交流会や日本語を学ぶ韓国人ボランティア学生との交流を通じて草の根交流推進の一助となった。<br>○草の根交流の展開（アンケートより）<br>「たくさん未知の部分がありました。いい学習ができたと思います。改めて日韓関係の友好を感じました」、「関係者の方々の暖かい見守りでの旅行は、安心してゆっくりさせて頂きました」、「交流団旅行は初めて参加しましたが、このような県や他都市の交流は、もっとPRしてもいいのではと感じました」など、政治情勢が冷え込んだ“こんな時期”だからこそ、草の根レベルでの交流の機会が実現できたことに意義が有るとの高い評価を得た。 |

④ ひょうごホームステイ受入事業(26 決算額 422千円)

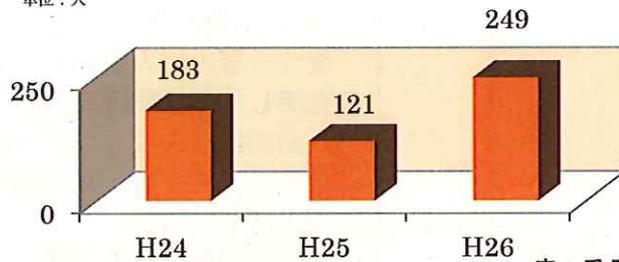
【実施状況】

安全・安心にホームステイ受入が可能となるシステムを構築

写真：ホストファミリーとの対面式



単位：人



表：受入人数推移

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○ホームステイ受入コーディネートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受入人数 249名 (受入家庭数延べ 148家庭)</li> <li>・登録家庭数 202家庭 (25 173家庭)</li> </ul> <p>○ALTホームステイ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月18日～19日 4名</li> <li>・3月21日～22日 10名 計14名 (25実績 11名)</li> </ul> |
| 評価 | <p>○受入数の増加</p> <p>国際情勢が自治体の国際交流にも影響を及ぼしている状況の中、県民の草の根交流を育む本事業は、受入人数は昨年度比倍増、受入家庭数は約40家庭増と約1.5倍と大幅に増加した。また、ホストファミリーの新規登録数も着実に伸びている。</p> <p>○受入増への対応策</p> <p>今後とも団体依頼の受入れのみならず、県内留学生やALT等のホームステイを実施することで、県民の草の根交流の機会創出を図っていく。</p>  |

⑤ 訪日教育旅行の誘致促進・学校交流支援(26 決算額 6,739千円)

【実施状況】

若年層の交流拡大によるリピーターや兵庫のファンづくり、国際理解・国際交流の推進を目指し、訪日教育旅行における学校交流等の受入を実施



写真：受入校との記念撮影

表：受入校及び訪日者推移



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○受入校／訪日人員 73校／2,296名   |
| 評価 | <p>○安定した受入人数・件数<br/>若干減少傾向にあるが、一昨年来の高い状態の受入が続いている。誘致・促進のため、「魅力ある兵庫」をPRすべく関係機関を含めた今後の一層の努力が必要である。</p> <p>○充実した学校交流の実施<br/>訪問校受入校ともに満足度の高い交流が実施できた。小学校から大学まで、公立校・私立校を問わず、学校交流を行い、国際交流の裾野を広げている。</p> <p>○更なる国際交流の進展<br/>訪問後の交流が進展した結果、姉妹校交流締結や相互訪問交流に拡大する等、交流人口の拡大や国際理解の促進が着実に根付いている。</p> <p>○様々な交流の実現<br/>学校交流・視察だけでなく、スカイプを通じた交流や児童作品の交換交流、淡路島民泊体験等、学校の実情に合わせた交流支援を行っている。</p> |

⑥ 海外における兵庫県のPR促進事業(26 決算額 16,000千円)

【実施状況】

5つの海外事務所において積極的にメディアを活用するとともに、展示会等に参画するなどして、兵庫県のPRを実施

**極品日本杯中物**  
兵庫美酒

兵庫縣是日本國內日本酒生產量最多的地方，佔全國30%的市場佔有率，當中更包括曾經提供給諸貝與愛德華的茗酒。想購買兵庫縣美酒的話，可以到兵庫縣神戶市或西宮市內一帶的酒精・遊客可以參觀造酒工場後寫信總匯心水美酒，有些酒精更提供免費試飲。

● 於神戶市及西宮市內的造酒場有售  
○ ¥3,000～/箱





左：香港フリーマガジン掲載記事  
右：パース観光セミナー商談会

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○5つの海外事務所において、年度を通じて兵庫県のPRを実施</p> <p>・主なPR事業<br/>震災20周年事業（各5事務所・1月）<br/>外務省「日本ブランド発信事業」丹波焼の紹介事業（シアトル・2月）<br/>ひょうご交流センター事業（ジャポニズム展など）の実施（パリ・随時）<br/>第二回パース日本祭（西豪・3月）<br/>兵庫食材プロモーション（香港・11月）</p> <p>○現地メディアへの協力による本県PRの実施<br/>香港フリーマガジンへの情報・関連資料に提供など（随時）</p> |
| 評価 | <p>○現地メディアを活用した本県PRの実施<br/>時機を捉えたトピックスをフリーマガジンなど各種メディアに提供することにより、県の活動のPRを実施している。<br/>香港経済交流事務所の例では、現地フリーマガジンに、六甲山、竹田城、砥峰高原、夢但馬、淡路島、はばタン等について、読者に興味を持ってもらえるような情報を厳選し、提供。魅力的な紙面により同事務所</p>  |

の現地でのプレゼンスを一層高めている。  
 ○海外事務所を核にした様々なPRの推進  
 県内企業の海外展開支援や外資系企業の本県への誘致促進のための情報収集や発信、観光情報PR、教育交流支援等により、本県経済活性化、外客誘致促進に努めている。

⑦ 草の根の国際交流事業の推進(26 決算額 1,478千円)

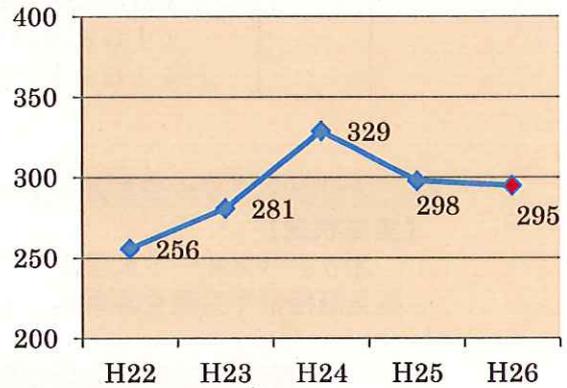
【実施状況】

協会事業・活動への支援組織である兵庫県国際交流協会友の会会員を中心に、県民が主体となった多様な草の根国際交流事業を実施

単位：会員数（3月末） 表：友の会会員数推移



左：バスツアー  
 右：食文化交流教室



【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○会員数 295名</li> <li>○食文化交流教室（計画 年3回）<br/>（ロシア料理）7月30日 120名、（スイス料理）10月17日 66名、<br/>（中華料理）1月21日 47名</li> <li>○オックスブリッジ交流事業<br/>英会話教室 8月4日～8日 延86名</li> <li>○バスツアー（姫路） 11月29日 39名</li> </ul>  |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業の推進<br/>会員のニーズをもとに事業を実施した結果、各事業とも定員を大きく超える応募があり、参加者からは有意義であったと好評を得ている。今後も会員及び外国人県民が積極的に参加を希望するような事業を企画し、草の根の国際交流活動の推進を図っていく。</li> <li>○県民一人ひとりが主役の国際交流の推進<br/>引き続き、県民一人ひとりが主役となる交流の場として各事業を展開するとともに、外国人県民が参加しやすい仕組みづくりを進める。</li> </ul> |

(2) 知的交流の推進

① 国際協力セミナー等の開催(26 決算額 250千円)

【実施状況】

国際協力の専門家、県内NGOの活動家や青年海外協力隊OB等を講師に招き、国別・テーマ別のセミナーやフォーラムを開催

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○時期 7月5日 50名、3月7日 120人(計画2回、100名)<br>○内容 「音楽のチカラ、アートのチカラ」(7/5)<br>「国際協力の現場から見たイスラーム」(3/7)  |
| 評価 | ○県民の国際協力への理解の促進<br>大学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加があり、県民に国際協力について理解を深める機会を提供できた。<br>○JICAとの連携の強化<br>JICAとの連携事業であり、定期的実施することにより当協会とJICAとの緊密な協力体制を築くのにも寄与している。 |

② オックスブリッジ英語サマーキャンプの実施(26 決算額 2,431千円)

【実施状況】

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生を県内大学・高校等に派遣し、英会話授業や国際交流事業を実施

写真：学校での交流



表：参加者推移

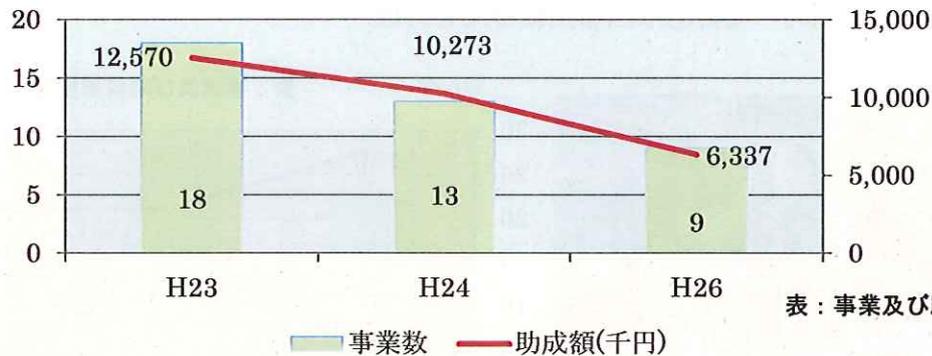
【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○参加者 延べ212名(計画 210名)<br>○実施期間 7月15日～8月15日<br>○受入団体/受入学生 9団体/10名  |
| 評価 | ○青少年の国際交流への意欲の高まり(アンケート結果より)<br>県内受入校のアンケート調査の「学生同士がすぐに打ち解けて和やかな雰囲気の中で授業・交流が進み参加者の満足度も高かった」といった回答に代表されるように、学生自らが進んで交流する姿勢を見せるなど次世代を担う青少年の国際交流を促進している。<br>また受入学生が講師となる英会話教室を通じて県民との草の根交流を行い、県民の国際理解の一助となっている。 |

③ 国際会議開催への助成(26 決算額 6,337 千円)

【実施状況】

県立淡路夢舞台国際会議場等での国際会議誘致を促進するため会議開催費の一部を助成



表：事業及び助成額推移

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○助成件数：9件<br>○助成金額：6,337千円  |
| 評価 | ○新制度活用による国際会議の誘致促進<br>地方都市を中心とした有利な助成制度創設など、誘致競争が激化しており、県立淡路夢舞台国際会議場での開催件数が年々減少している。このため、平成26年10月に、立地上の不利等をカバーするため、参加者送迎用のバス代助成など、新たな助成制度を追加し、さらなる国際会議誘致を推進している。 |

④ 国際会議場の活性化への支援(26 決算額 509 千円)

【実施状況】

淡路夢舞台国際会議場の活性化を図るため、国際会議場を会場に各種会議、セミナー等を共催により開催



写真：こころづくり絵画教室の様子

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○こころづくり絵画教室の実施<br>・実施日等 10月12日 参加者556名（年間計画1回、600名）   |
| 評価 | ○次代を担う子どもたちの交流<br>外国籍25名を含む556名が、さわやかな秋晴れのもと広い夢舞台の各所で思い思いの絵を描き上げると同時に、絵画を通じてお互いの文化などを相互に学べる機会として実施した。 |

### (3) 国際理解の促進

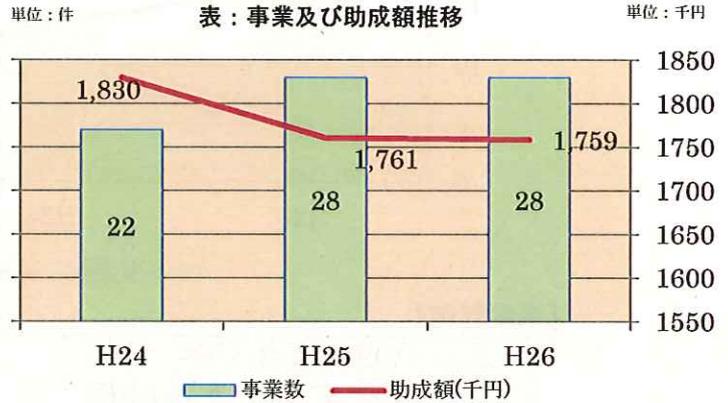
#### ① 民間国際交流事業への助成(26 決算額 1,843 千円)

##### 【実施状況】

県民レベルの国際交流活動を育成・奨励するため、NGO、NPO 等の非営利活動団体が  
行う先駆的・先導的な国際交流事業を助成



写真：但馬国際運動会



##### 【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○助成件数 28件<br>○助成金額 1,759,705円  |
| 評価 | ○県内各地で県民主体の国際交流・多文化共生事業を開催<br>県内各地で県民主体による多文化交流の行事や、海外との交流・協力目的の事業などが実施されている。民間団体が利用できる数少ない助成制度であり、草の根レベルでの交流を促進する一助となっている。<br>事業内容を多様化し、国際交流や多文化共生の機運をくまなく広げるため、新規団体からの申請が増えるよう広報活動に注力する。 |

#### ② 国際交流団体等ネットワークの構築(26 決算額 557 千円)

##### 【実施状況】

当協会が中心となり、各地域の国際交流に携わる団体・グループ間の連携の強化を  
促進するとともに、協働で諸課題に対処する国際交流団体等のネットワーク事業を実施



写真：ひょうご国際交流団体連絡協議会総会

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○ひょうご国際交流団体連絡協議会総会の実施<br/>         ・実施日：6月4日<br/>         ・参加者：77名</p> <p>○地域別意見交換会の実施<br/>         県内6地域において意見交換会を実施<br/>         (神戸、阪神・丹波、東播磨、西播磨、但馬、淡路)</p> <p>○防災関連事業の実施<br/>         県阪神7市1町合同防災訓練に参加<br/>         ・実施日：8月31日<br/>         ・参加者：33名 (21カ国)<br/>         ・場 所：芦屋浜</p>                    |
| 評価 | <p>○ひょうご国際交流団体連絡協議会の活動支援<br/>         協議会のホームページを開設し会員団体間の情報共有を図るとともに、会員団体と連携して講演会や研修会、意見交換会を県内各地域で開催し、団体間の連携基盤を構築した。</p> <p>○情報内容・発信の充実<br/>         当協会が配信する「ひょうご国際交流メールマガジン」を活用して、ひょうご国際交流団体連絡協議会の会員団体やひょうご国際プラザ登録団体、県内国際交流団体等から提供のあった国際交流・協力等の情報を継続的に発信し、団体間の情報共有・提供のツールとなった。<br/>         ・マガ会員数：1,800名</p> |

③ ひょうご国際交流キャラバンプロジェクト(26 決算額 274千円)

【実施状況】

国際交流員によるイベントを県内各地で開催することにより、県民に異文化に触れてもらうとともに、市町国際交流協会等とのネットワークを強化



写真：イベントの様子

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○実施回数 12回<br/>         相手方：市町国際交流協会、小学校等</p>   |
| 評価 | <p>○事業の定着化<br/>         事業が定着し、「ひょうご国際交流団体連絡協議会」のネットワークが強化された。相手方からも好評だった。</p> <p>○継続実施に向けた取組<br/>         国際交流員の交代等があるが、引き続き継続できるよう、円滑な実施に向けてPR等を工夫していく。</p> |

④ 地域国際交流団体連携支援事業(26 決算額 952 千円)

【実施状況】

「ひょうご国際交流団体連絡協議会」の会員団体が他の会員団体や域外の団体と連携して実施する広域的な各種事業に対して助成金(対象経費の1/2)を交付し、ノウハウや情報の共有等のネットワークの推進

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | ○第1次募集助成対象 小野市、佐用町、新温泉町<br>第2次募集助成対象 高砂市  |
| 評価 | ○応募団体の固定化<br>事業の周知不足により、新たな団体からの応募が少なかった。今後は事業内容をより丁寧に関係団体に周知していく。<br>また、前年度末に事業を公募していたが、新年度事業の応募は難しいという状況を踏まえ、H27年度からは募集時期を5月、11月とする等の方向で運営する。 |

⑤ 交流の集いの開催(26 決算額 989 千円)

【実施状況】

友の会会員が参画と協働を基本に、兵庫県の各地域の文化や、外国の社会や文化芸術を学びながら、外国人県民や外国人の団体と交流を図る「交流の集い」を開催



写真：交流の集いの様子

単位：人



- 領事館関係者
- 外国人コミュニティ
- 外国人学校
- 国際交流団体
- 友の会
- その他

表：参加者内訳

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | ○参加者 127名(内友の会 49名)<br>(在関西領事館、国際交流団体、外国人コミュニティ等)<br>○実施日 2月28日  |
| 評価 | ○県民一人ひとりが主役の国際交流の推進<br>県内の外国人コミュニティや二国間団体、関西領事団と連携を深め、県民の国際交流を促進する機会を提供した。友の会会員が国際交流関係者と幅広く交流できる機会として、国際性の涵養に有意義である。 |

⑥ 海外移住と文化の交流センターへの支援(26 決算額 1,000千円)

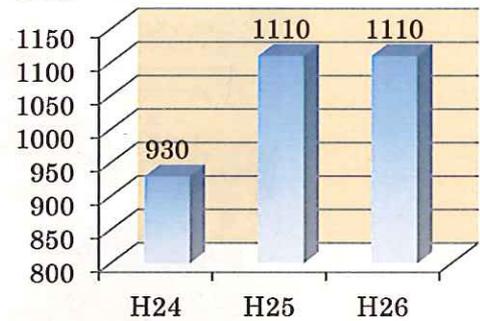
【実施状況】

神戸市立海外移住と文化の交流センターにおいて、在住外国人が日本人へ自国文化を発信し交流する事業をNPO団体等との協働で実施し同センターを支援



写真：サロン・カーナヴァウ

単位：人



表：多文化交流フェスティバル参加者数推

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○多文化交流フェスティバル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブラジル・日本の子どもの絵の交流展」 6月14日～8月31日<br/>出展作品数 333点 参加者約 760名</li> <li>・「サロン・カーナヴァウ」 2月1日～2月28日 参加者約 350名</li> </ul> <p>○多文化交流子どもサミット 3月26日～28日開催<br/>参加者約 94名</p>  |
| 評価 | <p>○多文化交流フェスティバルの実施</p> <p>「多文化交流フェスティバル」として、NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBKと協働し、「子どもの絵の交流展」と「サロン・カーナヴァウ」を開催。</p> <p>「絵の交流展」では、ブラジルと日本に住むブラジル人の子どもたちが「私の大好きな場所」をテーマに描いた絵を移住センターに展示。入賞作品を翌年のカレンダーに使用するなど、ブラジルと日本の子どもたちの文化交流に寄与した。「サロン・カーナヴァウ」はブラジル最大の祭りに合わせて開催する交流イベントであり、多くのブラジル人や近隣住民が集まり、賑やかで楽しいひと時を共有した。</p> <p>○多文化交流子どもサミットの実施</p> <p>「子どもサミット」については、7年にわたり県内に住む子どもたちの異文化理解促進に貢献してきたところである。今回、協働団体が移住センターから事務所を移し、センター外で実施するプログラムが増加してきたこともあり、本事業についてはセンター活用という所期の目的を達成したとの共通認識を持つにいたったことから、本年度をもって終了する。</p> |

⑦ 広報紙 (Come HIA) の発行(26 決算額 2,154 千円)

【実施状況】

国際交流・協力に関する各種情報及び協会の活動状況等を掲載した広報紙「Come HIA」を発行



図：Come HIA vol. 83-85

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | Come HIA<br>○発行回数 年3回(8月、11月、3月) (計画 年3回発行)<br>○発行部数 各4,000部<br>Come HIA(電子版)<br>○発行回数 41回  |
| 評価 | ○魅力ある協会事業を様々な媒体で情報発信<br>「Come HIA」は従来A4二つ折り4ページだったが、H26よりA4三つ折6ページと紙面を増やした。ページが増えたことにより、関係団体の活動内容等についても掲載が可能となり、内容の充実が図られるとともに、カラフルで見やすい紙面となった。<br>ホームページブログ形式の「Come HIA(電子版)」も、タイムリーな情報発信を行うなどにより、紙媒体と電子媒体の2つを効果的に用いることにより情報発信力が強化された。 |

⑧ 関係団体への支援

【実施状況】

EU協会や日本国際連合協会兵庫県本部、兵庫県海外移住家族会の活動を支援することで、国際問題や国際協力への関心を喚起するとともに、新たな交流のきっかけづくりを実施

〈兵庫EU協会〉



写真：元欧州委員フィシュラー氏講演会



写真：フランコフォニーフェスティバル in 神戸

<日本国際連合協会兵庫県本部>



写真：留学生交流プログラム in 宍粟  
(黒豆の苗植え体験)



写真：映画 DAY

【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○兵庫EU協会への支援（シンポジウム等イベント開催）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 セミナー             <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐日欧州連合代表部広報部エリック・ハーメリンク書記官講演会「日本進出を望む欧州企業へのEUの支援」6月6日 参加人員30名</li> <li>・元欧州連合代表部農業担当委員フランツ・フィシュラー氏講演会「危機を超えて-EU統合の将来」12月9日 参加人員約30名</li> </ul> </li> <li>2 オックスブリッジ英語サマーキャンプ2014を協賛</li> <li>3 関連団体の支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸日西協会、フランコフォニーフェスティバルin神戸実行委員会等が開催した講演会等を後援</li> <li>・EU関係セミナー・写真展等（12件）の広報支援</li> </ul> </li> </ol> <p>○日本国際連合協会兵庫県本部への支援（イベント開催）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 映画上映             <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画『ウッドストック・イン・トンブトゥ』 7月5日 参加人員 35名</li> <li>・映画『モンゴル野球青春記』 11月8日 参加人員 52名 JICA 関西と共催</li> </ul> </li> <li>2 留学生向けプログラム             <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生向け交流プログラム in 宍粟 6月7日（土）～8日（日） 参加人員30名</li> <li>・留学生向け交流プログラム in 戸倉 2月14日（土）～15日（日） 参加人員20名</li> <li>・農山村地域の方々・留学生・日本人学生との交流会 兵庫EU協会と共催（2回目は、関西学院大学とも共催）</li> </ul> </li> <li>3 会議等への支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回模擬国連会議関西大会への支援</li> </ul> </li> </ol> <p>○兵庫県海外移住家族会への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会報「家族会報告記」の作成・配布（年1回）</li> </ol> |
| 評価 | <p>○EUや国連活動の支援</p> <p>講演や映画上映を通して、EUや国際連合等の活動について広報し、県民に国際問題や国際協力について考える場を提供している。</p> <p>また、留学生向け交流プログラム（日本人学生も対象）の実施により、特に国際舞台で活躍できる青少年の育成、意識啓発にも注力している。</p>  |

### 3 人づくりへの貢献

外国人留学生への支援や外国人研修員の受入等国际社会を担う次代の国内外の人材育成を進める事業を実施した。

#### (1) 外国人留学生の支援

##### ① 私費外国人留学生奨学金の支給(26 決算額 66,862 千円)

###### 【実施状況】

留学生の生活の安定を図り学習活動を支援するため、私費外国人留学生に対し奨学金を支給



写真 左：合同企業説明会 右：交付式典

###### 【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○支給額 月額3万円</li> <li>○支給人員 195名（一般枠延べ153名、アジア新興国枠延べ42名）<br/>（計画 一般枠150名、アジア新興国枠50名）</li> </ul>   |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学業成就への支援の成果（学業実績報告書より）<br/>「奨学金を受けることになり、生活と学習の両方の支えとなった」<br/>「奨学金受給者交流会にて先輩方から就職体験アドバイスを聞き、日本で就職するきっかけになった」などの声が寄せられ、学位取得や就職のための資格取得などの学業支援成果につながった。</li> <li>○就職活動支援の実施<br/>今年度から奨学金受給者を対象に「奨学金受給者～就職セミナー～」を開催。先輩留学生や受給生同士の意見交換が行われ、有意義な交流機会を持つことができた。大学コンソーシアムひょうご神戸と連携して開催した合同企業説明会には、就活対象者88名（内受給者37名）が出席、県内中小企業15社の説明会に臨み、この説明会だけでも6名（内受給者2名）の内定者が出た。年度末までに奨学金受給者全体では29名が国内で内定を得ており、就職活動支援に大きな成果を残せた。</li> </ul> |

##### ② 留学生住宅機関保証推進システムの推進

###### 【実施状況】

留学生の民間住宅への円滑な入居を進めるため、大学等が賃貸借契約の保証人となる機関保証の実施に当たって必要な資金を貸付

###### 【事業評価】

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○貸付先 留学生版安全・安心ネット連絡会</li> <li>○貸付金額 100万円</li> </ul>                    |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○円滑な機関保証の実施<br/>26年度内での利用実績はなかったものの、加盟各大学が円滑に機関保証を行うことに貢献した。</li> </ul> |

## (2) 人材育成

### ① ひょうご海外研修員の受入(26 決算額 7,966 千円)

#### 【実施状況】

友好州省をはじめとする諸外国から研修員を受入れ、研修機会を提供することにより課題解決型の交流を実施



写真：研修風景（左：救助訓練 右：コミュニティ放送局研修）

#### 【事業評価】

|    |  |               |           |
|----|--|---------------|-----------|
| 実績 | ○受入人数 6名（計画 6人）  |               |           |
|    | 国名   | 受入期間          | 研修内容      |
|    | ロシア・ハバロフスク地方   | 7月6日～9月7日     | 貿易ビジネス    |
|    | インド  | 7月28日～10月24日  | 防災、救急救助技術 |
|    | ブラジル   | 8月23日～11月19日  | 美容技術      |
|    | アルゼンチン   | 10月9日～1月6日    | メディア      |
|    | 中国・海南省   | 10月19日～12月25日 | 日本語教育     |
|    | ※インドについては同日程で2名受入  |               |           |
| 評価 | <p>○技術の向上に資する研修プログラムの実施</p> <p>今年度はすべての研修員が2～3ヶ月の長期の研修を希望し、それぞれの技術の向上、人脈を広げることに大いに資する研修プログラムを実施できた。また研修先からも「受入を通じ、自分たちにとっても勉強になった」、「受け入れてよかった」などの謝辞を頂戴した。</p> <p>また昨年度に引き続き、例えば、友好提携45周年を迎えたハバロフスクの研修員は県民交流団事前説明会での自国や地域の紹介、南米からの研修員は地域の母語教育団体の活動への参加など、各人にその能力を活かせる一般県民との交流の機会を持たせるようにし、草の根交流の発展にも貢献した。</p> |               |           |

### ② ひょうごトルコ友愛基金による支援(26 決算額 512 千円)

#### 【実施状況】

ひょうごトルコ友愛基金（平成11年トルコ北西部大地震の際に県民から寄せられた義援金をもとに設立）はこれまでのべ1,181名の震災遺児・孤児を支援してきたが、震災時に0歳児であった子どもたちが義務教育を終える平成26年9月をもって奨学金事業はその役割を終えることとした。

その志を引き継ぎ、平成25年10月に締結された「ひょうご・トルコ地震防災対策プロジェクト」協定書に基づき、トルコの防災対策に関する人材育成などを目指すこととしており、平成27年2月には、兵庫県立大学及びトルコ中東工科大学等の連携の下、「減災・復興国際シンポジウム」を開催した。また土日基金やトルコ中東

工科大学と連携した「兵庫—トルコ防災協力セミナー（H27年4月）」開催に向けた支援・準備を行った。

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○減災・復興国際シンポジウムの開催<br/>         県立大学がトルコなど国内外の被災地の大学との連携をめざすシンポジウム開催を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日程 平成 27 年 2 月 7 日</li> <li>・場 所 ラッセホール</li> <li>・参加者数 200人</li> <li>・参加国 トルコ、中国、インドネシア、ニュージーランド、チリ</li> </ul> <p>○「減災・復興国際アカデミック・ネットワーク」の発足<br/>         減災・復興に関する国際大学間ネットワークによる防災人材育成等を目指す「国際大学間ネットワーク」の発足を支援（県立大学、トルコ・中東工科大学等、国内外の大学が参画（H27年2月））</p> |
| 評価 | <p>○土日基金との連携による新プロジェクトの円滑な始動に向けた支援<br/>         国際シンポジウム開催と防災協力ネットワーク構築に向けて、兵庫県側とトルコ側（土日基金・中東工科大学）の連絡調整を担当。土日基金と当協会との長年にわたる信頼関係を基にスムーズに調整を進め、トルコにおける地震防災対策の人材育成に向けた新たなプロジェクトをスタートさせた。</p>   |

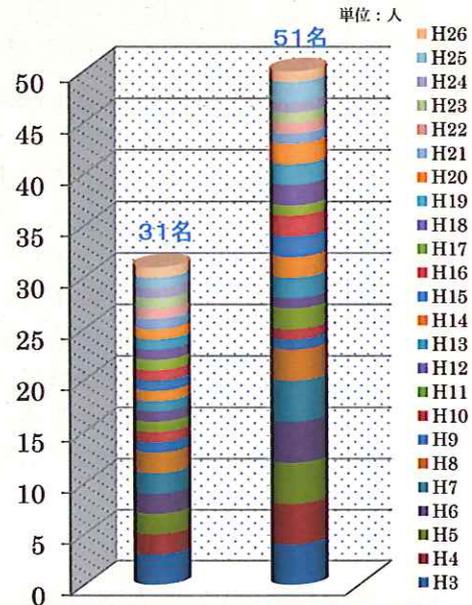
③ セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流の促進(26 決算額 他事業で計上)

【実施状況】

セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流を行い、両県民間の相互理解と友好関係を促進



写真：日仏交流コーディネーター活動風景



日本文化教師の派遣 企業研修生の受入

表：交流開始（H3）以降累積数

【事業評価】

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○研修員受入（ひょうご海外研修員制度を活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間 7月7日～10月2日</li> <li>・受入者数 2名（計画2名）</li> </ul> <p>○日仏交流コーディネーター（日本文化教師）の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣期間 平成 26 年 11 月～平成 27 年 9 月</li> <li>・派遣人数 1名（計画1名）</li> <li>・派遣先 セーヌ・エ・マルヌ県内の大学及び<br/>             セーヌ・エ・マルヌ県経済振興公社（SMD）ほか</li> </ul> |
|----|---|

|    |   |
|----|---|
| 評価 | <p>○両県間の相互理解の促進</p> <p>セーヌ・エ・マルヌ県からの研修員による兵庫県内企業等での研修活動や、兵庫県から派遣する日仏交流コーディネーターによる兵庫県情報（経済、投資、観光、文化）等の発信が、両県間の相互理解を促進している。</p> |
|----|---|

④ 外国語指導助手(ALT)を活用した人材の育成(26 決算額 兵庫県教育委員会で計上)

【実施状況】

外国人指導助手(ALT)を活用して、高校生の海外留学支援や姉妹校等との国際交流の推進を図り、国際的に活躍できるグローバルな人材を育成

4 その他事業

① 篠原住宅管理事業(26 決算額 6,490 千円)

【実施状況】

兵庫県が所有する旧オーストラリア総領事公邸を協会が借り受け、関西地域で活動する外国人ビジネスマン等への住宅物件として賃貸し、国際交流施設として有効活用

|    |  |
|----|--|
| 実績 | <p>○所在地 神戸市灘区篠原本町</p> <p>○敷地面積 約 2,400 m<sup>2</sup></p> <p>○建物 鉄筋コンクリート造 2階建 3棟 (1,374 m<sup>2</sup>)</p> |
|----|--|

② 外国人児童生徒の居場所づくり [再掲]

③ セーフティネットとしての地域日本語教室開設事業 [再掲]

④ 外国人県民の居場所づくり：地域日本語教室支援 [再掲]

⑤ 外国人県民生活サポート活動の支援 [再掲]

⑥ 医療現場で役立つ日本語研修会の開催 [再掲]

⑦ 友の会事業の推進 [再掲]

⑧ 交流の集いの開催 [再掲]

⑨ 兵庫県海外移住家族会事業 [再掲]

## 5 その他

### ① 「つどい」～阪神淡路震災20年・多文化共生をめざして～への参画

(26 決算額 復興基金事業として実施)

震災20年の節目の年にあたり、震災を契機に芽生え、復興の過程で生まれた本県の多文化共生社会の歩みをさらに確かなものとするため、震災の経験と教訓を伝え（「伝える」）、大災害に備え（「備える」）、復興の成果を発信する（「活かす」）ことを目的に、国籍を問わず誰でも気軽に楽しく参画できるフェスティバルとして実施された「つどい」事業へ参画した。



写真 上：世界の炊き出し  
下：国際子ども音楽祭



チラシ



上：防災運動会  
下：国際成人式

|    |   |
|----|---|
| 実績 | <p>○「つどい」～阪神淡路震災20年・多文化共生をめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時期 1月25日（日）</li> <li>・会場 神戸中華同文学校</li> <li>・内容 防災運動会、世界の炊き出し、国際成人式、パネルディスカッション、国際子ども音楽祭、パネル展示</li> <li>・参加者 2,000名</li> <li>・主催 「つどい」実行委員会</li> </ul> <p>（NGO神戸外国人救援ネット、関西ブラジル人コミュニティCBK、神戸華僑総会、神戸国際協力交流センター、神戸定住外国人支援センター、在日本印度商業会議所、在日本大韓国民団、在日本朝鮮人総聯合会、たかとりコミュニティセンター、兵庫県、兵庫県外国人学校協議会、兵庫県教育委員会、兵庫県国際交流協会、兵庫県市長会、兵庫県町村会、ひょうごラテンコミュニティ、ベトナム夢KOBE</p> |
| 評価 | <p>○実行委員会の中核団体として事務局を担当</p> <p>外国人県民の意見を県政に反映するため県が平成11年に設置した兵庫県外国人県民共生会議の構成団体が初めて実行委員会を組織し、これまでの取り組みの集大成となる意義深い協働事業を開催した。</p> <p>当協会は実行委員会の事務局として多数の構成団体間の連絡調整役を務めるとともに、地域外国人コミュニティや外国人支援団体と密に連携することができ、各イベントの企画運営を積極的にサポートし、実行委員会構成団体総参加による事業の成功に貢献した。</p> <p>○多文化共生社会実現への機運の醸成</p> <p>協働事業の実施による団体間の関係強化が今後の取り組みに役立つだけでなく、一般県民が自由に参加できるイベント開催を通じて、国籍や文化を超えた友好交流の大切さをアピールし、多文化が共生する社会づくりへの意識啓発に寄与した。</p>                        |